

ふじのくに 静岡みなと通信

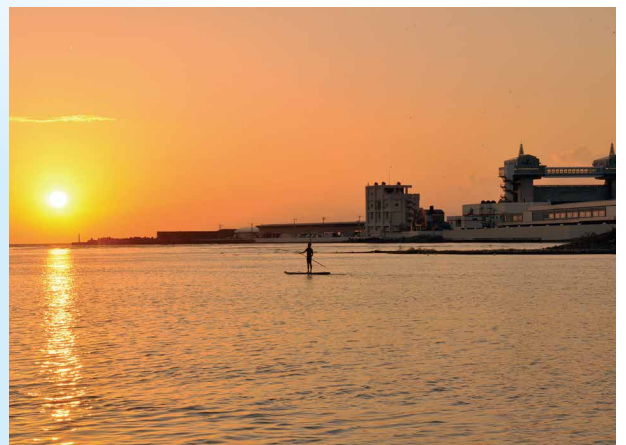
第31号
2022.1.21



大井川港全景(提供:焼津市)

～ 目次 ～

- 静岡みなと通信「第31号」発行に寄せて(焼津市長)..... 1
- 御前崎港が開港50周年を迎えました..... 2
- みなとニュース..... 3
- 静岡県港湾振興会の活動報告..... 6
- みなと自慢(沼津港)..... 7
- 港こぼれ話..... 9
- 港湾関係行事予定..... 11

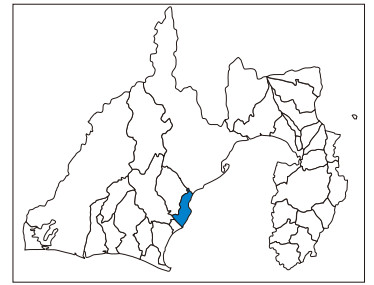


夕暮れの沼津港(提供:沼津市)

静岡みなと通信「第31号」発行に寄せて



静岡県港湾振興会評議員
焼津市長 中野 弘道



静岡県のほぼ中央に位置する焼津市は、県が管理する特定第3種漁港の「焼津港」、県内で唯一、市が運営する地方港湾の「大井川港」を有し、港とともに発展してまいりました。

中でも大井川港は、昭和39年に砂利資源の搬出拠点として誕生して以来、エネルギー需要の増加に伴い石油製品等を供給するなど、地域の産業活動を支援し、多くの企業とともに地域経済の発展に大きな役割を果たす港湾に成長してきました。

近年は、富士山静岡空港、大井川焼津藤枝スマートIC、国道150号等に近接した地の利を生かし、港を中心とした陸・海・空の主要交通網を活用したモーダルシフトを提案して、背後企業の物流効率化を促進するポートセールスを展開しており、経済界や港湾利用者の皆様との連携強化を図っています。



大井川港内(タンカー船接岸)の様子



毎年、「大井川港総合防災訓練」を行い、防災意識の向上を図っています。



災害に備えるため、港内では「胸壁整備工事」を進めています。



毎年4月に行われる「大井川港朝市」、会場は多くの人たちで賑わいます。(2017年)

一方、地域活性化の活動では、港で開催される各種イベントへの参加や支援に加え、国土交通省より「みなとオアシス」の認定を受け、「にぎわい創り」と「防災」の拠点として位置付けています。

他方、災害への備えは、「焼津市津波防災地域づくり推進計画」、「焼津市地震・津波対策アクションプログラム2014」を策定し、港内の胸壁整備、海岸の堤防改良など、地震・津波・高潮の防災・減災対策を実施しています。

今後も静岡県港湾振興会員の皆様と共に港湾・海岸整備、防災・減災対策、地域活性化に積極的に取り組んでまいります。皆様より一層のご支援、ご指導の程、よろしくお願い申し上げます。



焼津市の
マスコットキャラクター
やいちゃん

御前崎港が 開港50周年を迎えました

本州のほぼ中央に位置するとともに、駿河湾の入り口に位置する御前崎港が1971年（昭和46年）に関税法に基づく開港の指定を受けて、2021年（令和3年）4月1日で50周年を迎えました。

1950年代後半（昭和30年代）の御前崎港は岸壁がなく、漁船は自然の海岸線に引き上げて停船、沖合には風待ちをしている数え切れない程の船舶が停泊していました。

1951年（昭和26年）、地方港湾の指定を受けて以来、防波堤整備や埋立てが始まり、1970年代に中央ふ頭、1980年代に西ふ頭が整備され、大型船舶の荷役可能な岸壁や荷捌き地などが整備されてきました。2004年

（平成16年）には国際コンテナターミナルの供用が開始され、静岡県中西部地域の産業・経済活動を支える物流の拠点として、コンテナ貨物、完成自動車、RORO貨物などを取り扱い、また、地域の賑わいの拠点として、クルーズ船や帆船といった様々な船舶で賑わう港となりました。



遠州灘から富士山を望む御前崎港



御前崎港に寄港するコンテナ船・自動車専用船

昨年は、開港50周年の機運醸成を図ることを目的に御前崎港のロゴマークを市民投票で決定しました。開港50周年を記念して、記念式典や各種船舶の寄港・一般公開などの記念イベントを予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、各種行事については、中止させていただきました。

さらに開港50周年を契機として、50年後の御前崎港を見据え、地元関係者、清水港湾事務所、静岡県の参画のもと「御前崎港の将来を考える勉強会」を設置しました。7月には第1回勉強会が開催され、海洋環境の保全やブルー

カーボンの活用をテーマに、活発な意見交換が交わされました。今後は、官民の関係者が連携して、アマモ場の保全や育成に取り組む計画で、12月2日にはアマモが生息する西ふ頭入り口にある「^{くびしよ}久々生海岸」で、環境保全活動を行いました。

現在の御前崎港があるのは、御前崎港を利用いただいている荷主、海運業の皆様を始め、国、県の関係者の方々のご理解とご高配、諸先輩方のご尽力によるものであり、深く感謝申し上げます。

御前崎港開港50周年を契機により一層、世界に開かれた港、賑わいの港となるよう今後もご支援・ご高配を賜りますようお願い申し上げます。



ロゴマーク



みなとニュース



清水港海岸、御前崎港海岸 補助事業化

清水港海岸の日の出地区は、物流、人流、緑地、商業、行政等の多様な機能が集積し、また緊急輸送路や緊急輸送岸壁等の防災施設があり、重要な背後地を抱えています。しかし、防潮堤の未整備区間があり、早急な整備が望まれておりますが、富士山や港の眺望にも恵まれ、多くの県民や観光客に親しまれるなど、景観や賑わいへの配慮も重要な地区であるため、国際クルーズターミナルの拠点整備や緑地の整備等と連携した一体的で調和のとれた整備を計画しています。

御前崎港海岸は、公共施設や工場、倉庫が点在している上、富士山や港の眺望にも恵まれ、観光施設、海水浴場、公園やキャンプ場等の集客施設を有しています。しかし、堤防の高さが不足しているため、津波対策施設の改良を実施しています。

両海岸は、令和3年度から新規に創設された国土交通省の補助事業である津波対策緊急事業に採択され、早期完成を目指し津波対策を推進しています。



清水港海岸の賑わい状況(コロナ禍前)



御前崎港海岸の整備状況

熱海土石流災害の復旧状況

伊豆山港は、熱海地域における観光漁業の機能に加え、例年5月に「春のそれ!伊豆山伊勢海老磯まつり」、8月に「伊豆山温泉さざえ祭り」が開催されるなど、伊豆山地区の観光拠点として大きな役割を担っており、多くの観光客で賑わう「みなと」です。

しかし、令和3年7月3日に、熱海市伊豆山地区の逢初川で多くの犠牲者を伴う大規模な土石流が発生し、下流に位置する伊豆山港にも、大量の土砂やがれきが流れ込み、船溜まりや船揚場が埋塞し、漁船の入出港ができない事態となりました。

災害の最下流部である伊豆山港は、行方不明者の捜索を最優先し、8月4日から応急復旧工事に着手しました。現場では、陸上部の土砂を搬出し重機等の搬入路を確保し、9月下旬に船溜まりの浚渫を完了したため、9月30日に伊豆山港の供用停止を解除しました。

現在は、コロナの影響により、イベントの中止が続いていますが、伊豆山港に活気が戻り、多くの観光客で賑わうことを願っています。



臨港道路の土砂・がれき堆積状況



船揚場の土砂・がれき堆積状況

共創による美しいみなとまちづくり活動「清水港・みなと色彩計画」が、令和3年度都市景観大賞(景観まちづくり活動・教育部門)を受賞しました!

令和3年6月10日(木)、「清水港・みなと色彩計画」の取組が、都市景観大賞(景観まちづくり活動・教育部門)において、最高賞である大賞(国土交通大臣賞)を受賞しました。

「清水港・みなと色彩計画」は、静岡県静岡市の国際拠点港湾 清水港を舞台に、地域が主体的に「美しいみなとまちづくり」に取り組んだ30年間のプロジェクトです。

計画当初の清水港は、産業に特化した、市民の立ち寄れない殺風景な空間でした。そこで、「住む人・働く人・訪れる人にとって快適な港湾空間をつくること」、「活力を高めること」、「清水らしさ(アイデンティティ)を高めること」を基本方針としたうえで、シンボルカラー(アクアブルー、ホワイト)の設定や、港湾機能毎にゾーンを分けた配色計画など、戦略的かつ参画しやすい仕組みづくりを行いました。

港湾関連事業者、国・県・市の行政、市民がそれぞれの立場で役割を果たしてきたこの活動により、今では清水港は美しいみなととして、国内外の観光客から高い評価を受けています。

30周年という節目の年にこのような賞をいただけたことを励みに、より美しく、魅力あるみなとまちづくりを目指してまいります。



日本で初めて赤白の塗装制限から解除されたガントリークレーン。一基ごとの配色デザインを変え、富士山との調和を図っています。



清水港の賑わいの拠点である、エスパルスドリームプラザ。ランドマークとなっている観覧車も、シンボルカラーで美しく彩られています。

御前崎港管理事務所 新庁舎完成

静岡県御前崎港管理事務所の新庁舎が完成し、令和3年7月から業務を開始しました。新庁舎は、鉄筋コンクリート造3階建、屋上の高さは、海拔19.4m、建築面積は、438㎡、延べ床面積は、1,046㎡です。新庁舎は、地震が発生しても防災機能を確保できるように、基礎を高上げた上で、1階をピロティ形式にすることで、津波に対する安全度を高めています。あわせて、屋上につながる外階段を設けており、御前崎市から津波避難ビルの指定を受けました。また、空調や照明設備の高効率化などの省エネルギー技術の積極的な採用により、県内公共施設の建築物として初めて、ZEB認証*を取得しました。



御前崎港管理事務所の新庁舎

*ZEB認証/年間のエネルギー消費量の収支をゼロとすることを目指している建築物を認証する制度

「みなとオアシス浜名湖」が登録されました！

令和3年7月10日(土)、国土交通省港湾局により「みなとオアシス浜名湖」が登録されました。

浜名湖と太平洋がつながる今切口に位置する湖西市営の観光施設「今切体験の里 海湖館」を代表施設とし、新居弁天海釣公園、新居関所などを構成施設としています。

汽水湖である浜名湖は、豊富な魚種の集まる釣りスポットで、これまでも「浜名湖ミナトリング」、「浜名湖スポーツフィッシングフェスタ」など「みなと」を舞台とした様々なイベントが開催されています。代表施設の海湖館では、夏はウナギや魚つかみ体験、冬は牡蠣小屋が開催され、浜名湖の幸を家族連れで体感できます。併設する新居弁天海釣公園は約400台収容の駐車場が隣接し、5つの埠頭でソーシャルディスタンスを保ちつつ多くの人が釣りを楽しんでいます。

みなとオアシス登録により、今後は他のみなとオアシスとの交流も深め、より魅力と活気のある地域振興を目指していきます。

「みなとオアシス浜名湖」へぜひお越しください！



人気の魚つかみ体験



浜名湖と太平洋がつながる今切

三保内浜クリーンアップ作戦

令和3年7月18日(日)、清水マリンフェスティバル実行委員会と三保内浜クリーンアップ協議会は、清水港の三保内浜で、「三保内浜クリーンアップ作戦」を実施しました。

当日は猛暑の中、地元企業や自治会、海岸関係者、官公庁など40団体、総勢340人以上もの人が参加し、浜辺に打ち上げられた流木やゴミ等を手分けして集め、砂浜を綺麗にしました。

富士山世界文化遺産の構成資産である「三保松原」を背後に持つ三保内浜では、自然が豊かであることに加え、三保半島が天然の防波堤となり穏やかな海面を持つことから、一年を通じてマリンスポーツが楽しめます。このため、将来的には三保内浜をマリンスポーツの拠点にすることを目指しており、美しい景観を維持していくための一環として、本活動が開催されています。

県内各地では、様々な団体による海岸などでの清掃活動が行われており、誰もが訪れたいくなる美しい砂浜を目指し、今後も「クリーンアップ作戦」を実施していきます。



当日作業風景



作業完了後の三保内浜

清水港港湾計画を改訂

清水港では、おおむね10年後の具体的な整備計画となる港湾法に基づく「清水港港湾計画」を令和3年3月に改訂しました。

令和元年8月に策定した「清水港長期構想」では、おおむね20年後(目標年:2040年)の将来の共感できる目指す姿をデザインするとともに、その実現に向けた基本戦略や取組施策等を取りまとめました。

今回、「清水港長期構想」を踏まえ、おおむね10年後の具体的な整備計画となる港湾法に基づく「清水港港湾計画」を改訂しました。

改訂された港湾計画では2030年代前半までに清水港があるべき姿を「物流・産業」、「交流・生活・環境」、「防災・危機管理等」の3つの視点から計画しています。

計画の概要

	基本方針	計画の概要
物流産業	<ul style="list-style-type: none"> 次世代高規格コンテナターミナルの形成 次世代高規格ROROターミナルの形成 外内貿バルク貨物取扱機能の強化 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 新興津地区に大水深連続4バースを擁する多目的国際物流ターミナルを整備 袖師地区に3隻同時着岸できるRORO専用ターミナルを整備 新興津地区に大型バルブ船に対応した大水深岸壁を整備。袖師地区で袖師第2ふ頭を延伸し、大型バルク船対応の岸壁を整備 分散した取扱機能を袖師地区に集約・再編 産官学が連携した海洋研究開発拠点を貝島地区に形成(研究船・調査船用岸壁の整備等) 村松運河を埋立て、物流機能を再編
交流生活環境	<ul style="list-style-type: none"> 交流・賑わい拠点の創出 連続性・安全性に配慮した人流動線の確保と拠点間アクセスの向上 国際クルーズ拠点化とスーパーヨットの拠点港化 	<ul style="list-style-type: none"> 新興津地区に海浜・緑地を整備 江尻地区にフェリーターミナルを整備 折戸地区で水面を活用したリゾート形成に向けて土地利用計画を変更。緑地・緑道を整備 拠点を結ぶ水上バス棧橋を整備 旧清水港線鉄道跡地の活用。水際を周遊する緑道を整備 日の出地区にクルーズ船受入対応施設を整備 折戸地区・三保地区にスーパーヨット受入対応施設を整備
防災危機管理等	<ul style="list-style-type: none"> 防災機能の強化 	<ul style="list-style-type: none"> 新興津地区・袖師地区・江尻地区に耐震強化岸壁を新たに整備



清水港港湾計画(改訂)
(概要版)(PDF)

静岡県港湾振興会の活動報告

日本港湾協会の令和3年度定時総会が開催されました。

令和3年6月9日(水)、東京の砂防会館別館で日本港湾協会の総会が開催されました。昨年と同じく、新型コロナウイルス感染症対策のため、小規模での開催となり、港湾功労者表彰式は取り止めとなりましたが、静岡県の港湾の振興にご尽力された、安達 行彦様、山本高匡様、望月 敏弘様が受賞されました。

経済と暮らしを支える港づくり全国大会に参加

令和3年10月21日(木)、東京の砂防会館において、日本港湾協会など、港湾関係5団体による実行委員会が主催する、「経済と暮らしを支える港づくり全国大会」が開催されました。

当振興会からは田辺会長(静岡市長)、小長井副会長(富士市長)、柳澤副会長(御前崎市長)、齊藤熱海市長、松木下田市長、中野焼津市長をはじめ15名が出席しました。

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策のため規模を縮小しての開催となりましたが、大会では、各地区の港湾所在市町村長の代表による港湾整備・振興に関する意見表明、港湾整備の推進に向けた決議が行われました。

大会に先立ち、令和3年10月20日(水)、国土交通省港湾局会議室で、東海地区港湾協議会主催による港湾局長への要望が行われ、港湾所在市町村長が意見発表・要望を行い、港湾整備への支援を訴えました。

静岡県港湾整備促進大会は中止となりました。

令和3年7月16日(金)、静岡市内にて静岡県港湾整備促進大会を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2年連続で、開催は取り止めとなりました。なお、「港湾整備の促進に関する決議」については、例年通り取りまとめ、関係各方面に対して要望活動を展開していくこととしました。



経済と暮らしを支える港づくり全国大会の様子

みなと“白慢”

沼津市 水産海浜課

～Sea級グルメ全国大会を契機に～

1. 沼津港の役割と沿革

沼津港は、豊富な海産物を取り扱う沼津・伊豆西圏域の「流通拠点」、砂・化学薬品・金属くず等を扱う県東部の「物流拠点」、魚市場周辺の特性を活かした商業・飲食・観光交流の「サービス拠点」、大規模災害時に緊急物資の受入れなどを行う「防災拠点」といった多様かつ重要な役割を担う静岡県の管理する港湾です。

平成12年に「特定地域振興重要港湾」に選定され、大型展望水門「びゅうお」、水産複合施設“沼津魚市場イーノ”、マーケットモール“沼津 みなと新鮮館”などが整備されてきました。その間、周辺地区には特色ある商店、飲食店、水族館などの集積が進み、平成19年には「みなとオアシス」の認定を受け、様々な情報発信やイベントを展開して



「夜間のライトアップ」ぐるり360°のパノラマ!

大型展望水門
「びゅうお」

います。

平成27年には静岡県により「沼津港みなとまちづくり推進計画」が策定され、港の基盤整備については静岡県、集客施設の整備などにぎわい創出については民間が主体となり事業を進めることとし、市は地元の様々な思いを汲み、関係者間の意見調整を図っています。

沼津港は、JR東海道本線「沼津駅」から車で5分程度の立地にあり首都圏からも近く、平成27,28年度には東名・新東名のスマートインターチェンジが開通するなどアクセスも向上しており、年間160万人以上が訪れる市内でも随一のにぎわいの場となっています。



マーケットモール「沼津みなと新鮮館」

2. 「ぬまづ港 海の駅」の認定について

「沼津港みなとまちづくり推進計画」において整備が行われている内港浮さん橋が令和3年4月に部分供用を開始し、これを管理する民間事業者からの申請により、8月1日に全国で117番目、県内で12番目の海の駅として認定され、「ぬまづ港 海の駅」(愛称:めんだこ)が誕生しました。海からの新たな玄関口として、プレジャーボート等での来港者の拡大のほか、ヨットなどの係留による新たな港の景観の創出など、さらなる地域振興が期待されています。

3. 令和5年「Sea級グルメ全国大会」の沼津開催決定!

市制施行100周年となる令和5年に、「Sea級グルメ全国大会」の沼津開催が決定しました。沼津港で初の全国規模のイベント開催となり、全国から多くの方々の来訪や、中心市街地などへの経済波及効果も期待されているところです。

「Sea級グルメ全国大会」のメイン会場として活用することとしている内港西側の緑地整備が県により推進され、浮さん橋の整備についても開催までに竣功が予定されています。

沼津市では、大会開催に向け、昨年6月に実行委員会を設立し、PR活動を展開しながら機運の醸成を図っています。

10月には、沼津港での「Sea級グルメ全国大会」の開催を周知するとともに、次世代を担う子供たちに「沼津港」や「沼津の水産業」についての興味を喚起するため、市内全児童及び保護者を対象とした「Sea級グルメ新聞」を発行しました。

また、PR効果を高めるためのアニメーション動画を作成し、らぽーと沼津「LOVE NUMAZUイベント」の会場内大型スクリーンで公開したほか、市公式YouTubeでも配信を行っています。

今後、大会の開催に向けた、さらなる周知活動を行い、この大会を契機として、広く「沼津港」の魅力を発信していきます。

「Sea級グルメ新聞」第1号



「LOVE NUMAZUイベント」会場の様子



アニメーション動画はこちら↓



市公式YouTube

4. さいごに

「Sea級グルメ全国大会」の開催は、「沼津港」・「沼津の水産業」さらには、「沼津市」を全国に向けてPRする上で絶好の機会です。また、大会を通して培われる地元関係者との連携や、市民とともに開催機運を盛り上げていくことにより、市制施行100周年の節目となる令和5年に向け、シビックプライドの醸成を図ることが可能です。この機会を最大限に活かして、大会の成功はもとより、大会後のさらなる発展にとぎわいに繋げていきたいと考えています。ぜひ、沼津港にお越しください。

(「Sea級グルメ®」は一般社団法人ウォーターフロント協会の登録商標です。)

～港こぼれ話～

「港湾・・・つれづれ草」



元静岡県交通基盤部清水港管理局長
原 隆一

1. はじめに

歴代の執筆者の方々に比べ、私は現役最後に港に関わっただけ、このように文章を書くのは誠に恥ずかしい限りである。ただ縁あって、退職後の就職先が港湾荷役を業務とする田子の埠頭(株)であったこともあり、違った視点で、港での経験をお話しできると思い、筆を執った。

2. 清水港管理局時代(2013～2014)

(1) 津波防潮堤

2014年度は、東日本大震災から2年、防潮堤に関する議論が盛んに行われていた。しかし、日の出地区周辺は、商業施設が多く、それによるデメリットも多いため、計画立案は遅々として進んでいなかった。

計画原案を立て、地元説明会を始めたところ、地元企業からクレームが入った。港の活用という観点で問題があるという。説明が欲しいというので出かけて行った。出席者は、企業の専務クラス、商工会議所の幹部が20名ほどであった。

防潮堤のメリット・デメリット、この案はあくまでも原案であること、そして説明会での意見を計画に極力反映すること、を真摯に説明させていただいた。ごり押しの計画ではないということを理解していただき、説明会は閉会となった。

その後、防潮堤計画の委員会を設立し、様々な議論の末、最終的に計画が定められた。あれから、既に5年以上が過ぎたが、未だに工事の音は、聞こえない。

(2) 港BCPの策定

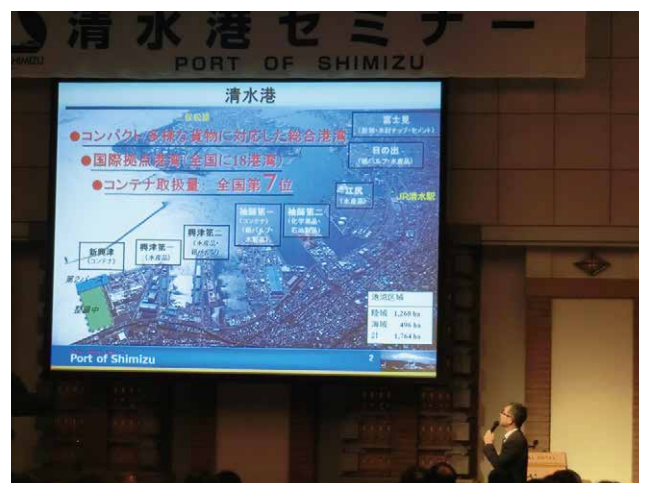
局長室に、A社の専務が駆け込んできた。取引先のメーカーから、「清水港は、BCPがない。災害時に港が確り運用されないのは大問題だ。」と言われたという。港BCPの策定については、本庁の港湾課とも協議中で

あったが、結果的に企業に背中を押された形になった。

協議会を設立し協議を始めた。関係企業の多い清水港では、委員だけでも20人以上、監事など含めてかなり大人数の協議会である。2年にわたり計5回ほどの協議会を開き、清水港BCPは策定された。最後の協議会で、「BCPは出来上がった計画が重要なものではありません。この企画を基本として、如何に常日頃の備えに繋がっていくかが重要です。この協議会は今後も継続的に実施していきます。」と委員の皆さんに投げかけた。その後の協議会の動向が気にかかっている。

(3) ポートセールス

清水港では、各地で企業向けのセミナーを行っている。特に大規模に行われるのは、東京の帝国ホテルで行われる「清水港セミナー」だ。1,000人を集客できるホールにほぼ満席の人が集まる。局長は、港湾業務の概要を説明する訳だが、これだけの人数になるとさすがに緊張する。自分としては、人前で説明するときは、「書いたものを読むのではなく、確り正面を向いて話す」ことを信条としていたので、その緊張感は大変なものだった。「局長、良かったですよ。」とみんな言ってくれたが、私自身は見てないので、..



首都圏「清水港セミナー」

(4) 客船誘致

客船が寄港すると港を上げて歓迎する。その時のセレモニーは港に活気を呼び起こす。局長は、船長さんたちに土産品を渡したり、写真に納まったり、他の部署では味わえない華やかさだ。船内に案内され、英語でスピーチしたこともある。もちろん、事前に英文で作文してもらってスピーチするのだが、果たしてうまく伝わっていたかどうか、..



客船セレモニー

(5) その他の思い出

2013年の5月に行われた新興津埠頭のオープニングセレモニーで、施設の概要を説明した。最初に、知事をはじめ数人の関係者が挨拶に立ったが、彼らの多くが施設概要を話しはじめるといふ、まさかの事態に。私が演壇に立つ時には、既に粗方の施設概要が説明されていた。演壇に立った私は、「施設概要については、来賓の皆様から詳しくご説明があったところですが、私の説明はその復習とお考え下さい。」といて概要を読み上げた。最前列の知事が笑っていたので、ほっと胸をなでおろした。



新興津コンテナターミナル第2バース供用開始式典

3. 田子の浦埠頭(株)時代(2015~2019)

(1) 港湾労組

田子の浦埠頭(株)にも労働組合がある。面白いことに、職員のうち、組合員は、現場職員のみで、結果的に事務職対現場職という色合いになる。団体交渉は年3回、春闘と年2回のボーナス時期である。基本的には条件闘争だが、組合側が様々な話題を持ち出して、丁々発止の議論となる。議論の中には腹を立てたくなるものもあったが、それも立場が言わせているのだと自分に言い聞かせた。

(2) 津波防潮堤!?

田子の浦港は、伊勢湾台風後に巨大な高潮堤が建設されたこともあって、レベル1の津波には安全な構造になっている。当時、富士市は、死者0を目標にレベル2対応の防潮堤の建設を検討していた。既に協議会での審議も進んでいて、建設後の活用まで議論されていた。計画案には様々な問題点があり、会議の中で「防潮堤ありきの議論」について疑義を申し入れたが、聞き入れられることはなかった。年度が明けて新しい港振興課長が就任すると議論が好転し始めた。彼は、私からの意見書を参考に、再検討を始め、市上層部に説明を始めた。結果として、防潮堤の建設は中止となり、港口の波除堤の補強で計画をまとめ上げた。あのまま防潮堤建設が進められなくて良かったと今でも思う。それにしても、過去の議論に惑わされず、改正案に舵を取った、市の関係者に敬意を表したい。

(3) その他の思い出

田子の浦埠頭では、懇親旅行が続けられている。事務職員と現場職員が同時に楽しみを共有する唯一の機会だ。団交で議論をした組合役員ともその時は楽しい会話が生まれる。これがまた港湾の魅力なのかもしれない。

4. おわりに

港での仕事を離れて3年目、今は、静岡市内の建設コンサルタントに勤めている。仕事で港湾の話をするとはなくなったが、港湾関係の友人と年に何回かお会いしている。実は、港のこぼれ話はまだまだある。中々公表はできない事が、..